

新ごみ処理センターの基本的な考え方②

新ごみ処理センターは安心・安全な施設を基本と考えています

～安心・安全が第一です 万全の対策を講じます～

焼却施設の安全対策

低温焼却で生成しやすいダイオキシンの発生を抑制するため、高温で安定的に燃焼（24時間連続運転）します。また、排ガスを急速冷却することで、ダイオキシン類の再合成を抑制します。さらに、高度な排ガス処理施設（バグフィルタ）により排出を抑制します。国の排出基準0.1ng-TEQ/m³Nに対し、実際稼働している施設の多くは1/10～1/100の水準となっています。SO_x（硫黄酸化物）、NO_x（窒素酸化物）、HCl（塩化水素）も、燃焼管理、触媒、バグフィルタで排出を抑制します。全国には、街の中心部にある施設、果樹園・茶畑の中の施設と様々ありますが、健康被害、農作物への風評被害は現在はありません。

リサイクル施設の安全対策

機械選別に併せて、手選別を実施し、ガスボンベ等の混入による事故を防ぎます。

最終処分場の安全対策

土壌・地下水系への影響を防ぐため、2重5層^{しやすい}の遮水シートを採用します。埋立物は溶出しにくい物^{しやすい}のみとし、廃棄物に触れた水は貯水槽に溜め、水処理をした後に施設内で再利用することにより、施設外には出しません。
*雨水については別水路で調整池に溜め、安定的に放流します。施設内の生活排水は下水道へ放流します。

監視体制

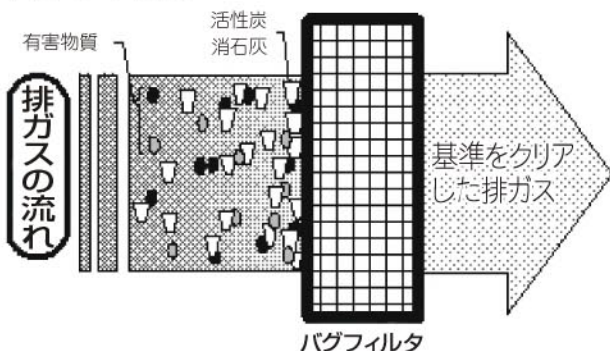
各施設の稼働状況は、24時間体制でモニター実施のもと集中管理します。測定結果については、定期的に地元^{しやすい}に報告します。地元の方も現場確認できますし、協議により監視委員会(仮)の設置を検討します。

環境影響評価

施設の建設による周辺環境への影響を少なくするために、施設を建設する前に環境影響評価を2年半かけて実施します。計画段階(実施計画書・準備書)で公告縦覧し、皆さんの意見を伺い調整します。報告書(評価書)も公告します。工事中を含め施設稼働後も一定期間環境管理調査を実施し、結果を公表します。

排ガス対策

バグフィルタ

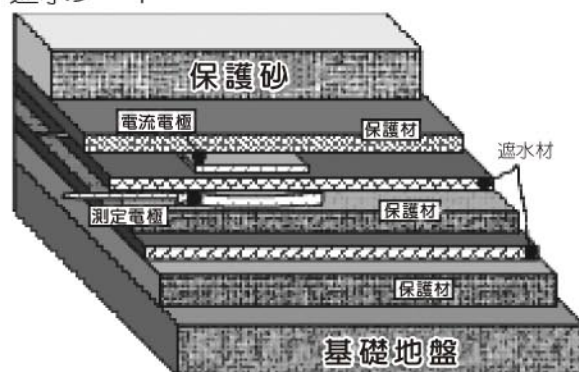


※バグフィルタ

排ガス中の有害物質を取り除く集塵機。燃焼で生じた排ガスに活性炭や消石灰を吹きかけ、ばいじん等の有害物質を付着、粒子状にしてフィルターでこし取ります。特に、ダイオキシン類は排ガス基準値の1/10～1/100にまで抑えられる優れたものです。

浸出水対策

遮水シート^{しやすい}



※遮水シート

最終処分場において、ごみに触れた水等が地中に浸透しないよう防御します。より安全性を高めるため、何層もの構造になっています。さらに、電気式漏洩検知システムによる監視装置の導入も検討します。